小　学　校

平成２６年度

教育研究員研究報告書

図画工作

東京都教育委員会

目　　次

Ⅰ　研究主題について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

Ⅱ　研究の仮説・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
　1　仮説の設定について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
　2　目指す児童像・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
　3　調査結果に基づく研究の視点・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

Ⅲ　研究の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
　1　基礎研究・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
　2　実践研究・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

Ⅳ　研究の内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
　1　研究構想図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
　2　研究のイメージ図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
　3　検証授業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6

Ⅴ　研究の検証・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２１
　1　検証授業前、後における実態調査結果の比較・・・・・・・・・・・・・・・２１

Ⅵ　研究の成果と課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２３
　1　研究主題に迫る手立てによって得られた成果について・・・・・・・・・・２３
　2　今後の課題について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２４

【研究主題】

自ら思い、自ら考え、表現を高めていける児童の育成

～児童が感性を働かせ、自ら選択・決定し表現することができる指導方法の工夫～

Ⅰ　研究主題について

研究員が所属する学校の、図画工作の授業における最近の児童の傾向を協議したところ、児童の現状として、「自己肯定感・自尊感情が低い」「自力解決ができない」「自身の作品や活動に満足していない」「既習事項を生かして表現できていない」という課題が挙げられた。

実際の児童の実態を把握するために、教師の実感をもとに調査項目を検討し、1,398 名の児童を対象（都内公立学校　抽出７校）に実態調査を行った。その結果、図画工作の授業で、自分の思いや考えを表すことが好きな児童は 90％である一方、作品に満足していない児童は 17％、自信をもっていない児童は 22％、これまでの学習を生かしていない児童は 17％であることが分かった。この調査結果から、児童の実態の傾向として、造形活動への興味・関心・意欲は高く、自分の思いや考えを表すことが好きな一方で、活動の途中でつまずくことにより、その活動や作品に満足ができず、自信をもって表現することができないなどの課題があることが読み取れた。とりわけ、活動中に児童がつまずいたり困ったりする具体的な場面として「何をしようか決められないとき」が一番多く挙げられ、「発想や構想の能力」における課題があると考えられる。また、「途中までつくったけれど自分の思い通りにならない」「つくる方法や順番がわからない」などの回答からは、児童自身が発想や構想したことを具体的な形や色などで表現するための、「創造的な技能」における課題があると考えられる。これは、児童が思い浮かべたイメージやアイデアが、実際の材料や用具を効果的に活用して、自分の思い描いた表現になりにくい要因があると捉えられる。

さらに、アイデアが浮かぶ具体的な場面として「材料を見たり触ったりしているとき」「先生の話やつくりかたを聞いているとき」「友達のつくりはじめた作品を見たり、友達と話したりしたとき」などが多く挙げられた。このことより、児童が自分自身の力で考え、試行錯誤しながら思いや考えを表現にするための主題や方法を、選択し決定していくためには、これまでの造形経験に加えて、もの（材料等）や人（教師や友達）との関わりが重要な要素であることも考えられる。

児童が主体的に学習活動（表現活動）に取り組み、感性を働かせながら発想や構想し、児童自身の思いや表したいことを表現するための方法を考え、つくりだす喜びを味わうことは、自己実現を図り自己肯定感を高め豊かな情操を養うことにつながる。

上記の実態調査等の結果より、本研究では、児童が楽しんで自らの思いをふくらませ、表したいことや考えを、これまでに身に付けてきた造形的な力を総合的に活用して豊かに表現を高めていくことを目指し、研究主題を「自ら思い、自ら考え、表現を高めていける児童の育成」と設定した。

副主題は、本研究の主題に迫る手立てとして、「感性を働かせること」と、「発想や構想の能力を高めること」を切り口とし、「～児童が感性を働かせ、自ら選択・決定し表現することができる指導方法の工夫～」とした。これは、図画工作における思考力・判断力・表現力の育成が、主に「発想や構想の能力」及び「鑑賞の能力」に関わることを意識し授業改善を図ることをねらいとしている。

具体的には、児童が図画工作における既習の「創造的な技能」やこれまでの造形経験を思い出したり、材料や用具の特徴を捉えて新たな方法を思い付いたりできるようにする。さらに表現及び鑑賞の活動の中で友達との関わりを通して発想を広げられるように導くことで、児童がこれまで培ってきた感性をさらに豊かに働くようにさせる。また、自分の表したいもののイメージや発想したことを形や色などで表現するために、材料や用具及び表現方法などを選択し決定するための指導方法の工夫を検討していく。このような手立てにより、主体的に自らの思いや考えを表現することを高めていく児童の育成につながることを考え設定した。

Ⅱ　研究の仮説

既習事項や造形経験を生かし、材料などや人との関わりの中で豊かに感性を働かせながら、「発想や構想の能力」を高め、自ら表したいものを選択及び決定できるような指導方法の工夫を行えば、自信をもって、主体的に自分の思いや考えを表現し高めていくことができる児童を育成できるであろう。

１　仮説の設定について

以下の４つの観点による指導方法の工夫を考案した。

（１）児童の「造形への関心・意欲・態度」を高める指導の工夫を行う。

ア　授業構成や展開の中で、題材の提示方法や材料との出合わせ方、発問内容を考える。

イ　共感・肯定的な声掛けを個に応じて効果的に行い、活動や表現に対して自信をもたせる。

（２）児童の「発想や構想の能力」を高める指導の工夫を行う。

ア　材料などや人と意図的・効果的に関わらせ、発想や構想の手掛かりとする。

イ　児童が自分の課題に向き合い、表したいことを選択や決定していくために、個に応じた指導や助言、支援を行う。

（３）児童の「創造的な技能」を高める指導の工夫を行う。

ア　発達の段階に応じた学習や造形経験を計画的・系統的に積ませ、基礎的・基本的な知識や技能の定着を図る。

イ　既習事項や造形経験を生かし、表したいものに合わせて総合的に活用できるように指導する。

（４）児童の「鑑賞の能力」を高める指導の工夫を行う。

ア　友達の作品や鑑賞作品などのよさやおもしろさ、美しさを感じ取り、自らの表現に生かせるように、表現と関連した鑑賞の活動の場面を意図的・計画的に設定する。

このことにより、以下の児童を育成できると考えた。

２　目指す児童像

（１）自信をもって挑戦し、自分の思いや考えを主体的に表現することができる児童

（もっとよい作品になるように考えたり、つくり方を工夫したり、新しい方法を試したりする。）

⇒【造形への関心・意欲・態度】

（２）発想や構想したことを形や色などで豊かに表現することができる児童

（アイデアやイメージしたものを材料の造形的な特徴や用具の特性を生かして、具体的な作品に表す。）⇒【発想や構想の能力、創造的な技能】

（３）経験したことや友達との関わりを通じ、豊かに感性を働かせることができる児童

（友達の作品などのおもしろさを捉え、よさや美しさを感じ取り、自分の作品に取り入れて生かそうとする。）

⇒【造形への関心・意欲・態度】、【鑑賞の能力】

３　調査結果に基づく研究の視点

本研究員の所属校の児童を対象とした実態調査結果から、以下のことが分かった。

（１）造形への関心・意欲は全体として高いが、自信をもてない児童がいる。

（２）「作品をつくっているときに、困るのはどんなときですか？」の項目で最も多かった「つくるとき、何をしようか決められないとき」という回答から発想の場面でつまずきが大きいこと、次に多かった「途中までつくったけれど、自分の思い通りにうまくいかなかったとき」という回答から、イメージを具現化するための「創造的な技能」や、作業手順を考える構想の能力でつまずきがあることがわかる。これらの能力は、繰り返し行う中で身に付くものであり、これまでの技能面における既習事項を踏まえた題材設定や指導計画に課題があると考えられる。

また、「アイデアが浮かぶのはどんなときですか？」の項目で「材料を見たり、さわったりし

ているとき」次いで「先生の話やつくり方を聞いているとき」「友達のつくりはじめた作品を見たり、友達と話したりしたとき」という回答が多かったことから、児童は材料などに働きかけたり、人（教師や友達）と関わったりすることから発想の手掛かりを得ていることがわかる。

（３）友達の作品を見たり、作品について友達の話を聞いたりするのが好きな児童が多く、その理由として「工夫に気付いたり、アイデアを思い付いたりするから」という回答が多いことや、前述（２）の中で「友達のつくりはじめた作品を見たり、友達と話したりしたとき」にアイデアが浮かぶと答えている児童が多いことから、児童はつくりながら自然に友達の作品を鑑賞し、自分の表現へ生かしていることがわかる。

以上の結果から、「既習事項の積み重ね」「材料などや人との関わり」、の二つを研究の視点の重点とし、授業改善への具体的な手立てを検討することとした。

Ⅲ　研究の方法

１　基礎研究

（１）実態調査

本研究員の所属校において、「造形への関心・意欲・態度」である造形活動に対する自信に関する項目、「発想や構想の能力」、「創造的な技能」における既習事項の活用に関する項目、「鑑賞の能力」における関心や意欲及び効果に関する項目の視点で、質問紙法によるアンケートを２回実施する。

第１回は、担当学年全ての児童を対象にアンケートを実施し、主に児童の実態把握の資料とする。第２回は、検証授業、授業改善を行った後の 12 月に担当学年全ての児童を対象とする。

検証授業・授業改善の前・後を比較し、児童の活動や意識の変容を明らかにすることで、研究仮説に基づいた題材設定や授業構成及び指導方法が有効であったかを検証及び分析することを目的とする。

（２）先行研究の分析・検討

以下の参考文献等から、本研究の裏付けとなる内容や関連する内容を調査・検討し本研究の根拠とする。

ア　中央教育審議会答申（平成 20 年１月）では、近年の国内外の学力調査の結果

イ　「自尊感情や自己肯定感に関する研究」（東京都教職員研修センター平成 20 年度）

ウ　「特定の課題に関する調査 - 小学校図画工作・中学校美術」（国立教育政策研究所教育課程研究センター平成 21 年度）

２　実践研究

研究主題・副主題・仮説に基づいた題材設定、題材開発を行い、各題材に応じた指導方法を研究する。また、検証授業は、低・中・高学年及び「Ａ表現（１）造形遊び」、「Ａ表現（２）絵や立体、工作」「Ｂ鑑賞（１）鑑賞」に設定し、それぞれに対する研究仮説に基づいた指導方法（具体的な手立て）を実践する。

検証授業によって、指導方法が有効であったかを検証及び分析し、研究協議で成果と課題を明らかにする。

Ⅳ　研究の内容

1　研究構想図

【教育研究員共通テーマ】思考力・判断力・表現力等を高めるための授業改善

【図画工作科の目標】

表現及び鑑賞の活動を通して、感性を働かせながらつくりだす喜びを味わうようにするとともに、造形的な創造活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う。

【図画工作科で育成する資質や能力】

造形への関心・意欲・態度　　発想や構想の能力　　創造的な技能　　鑑賞の能力

【教育課題】

・自信をもって表現する児童の育成
・思考力・判断力・表現力の育成
・豊かな心や健やかな体の育成

【児童の実態】

□ 造形活動への興味・関心・意欲が高い。
□ 友人の活動や作品のよさを感じとり、自分の表現に生かしている。
■ 自信をもって表現できない。
■ 自らの力で、発想することや構想することができない。
■ 材料や用具の経験や技能を総合的に生かすことができない。

【研究主題】

自ら思い、自ら考え、表現を高めていける児童の育成

～児童が感性を働かせ、自ら選択・決定し表現することができる指導方法の工夫～

【研究の仮説】

既習事項や造形経験を生かし、材料などや人との関わりの中で豊かに感性を働かせながら、「発想や構想の能力」を高め、自ら表したいものを選択及び決定できるような指導方法の工夫を行えば、自信をもって、主体的に自分の思いや考えを表現し高めていくことができる児童を育成できるであろう。

【研究の方法】

○基礎研究（実態調査　先行研究の分析・検討　）
○実践研究（手立てを踏まえた検証授業、考察、授業改善、授業提案）

【研究の内容】

【手立て】

○「造形への関心・意欲・態度」を高める工夫

・導入等において、題材の提示方法や材料との出合わせ方、発問内容を工夫する。
・共感・肯定的な声掛けを個に応じて効果的に行い、活動や表現に対して自信をもたせる。

○「発想や構想の能力」を高める工夫

・材料などや人と意図的・効果的に関わらせ、発想や構想の手掛かりとする。
・個に応じた助言や支援を行い、児童が自分の課題に向き合い、表現したいことを決定していくことができるようにする。

○「創造的な技能」を高める工夫

・発達段階に応じた学習や造形経験を計画的に積ませ、基礎的・基本的な技能の定着を図る。
・既習事項や造形経験を生かし、表したいものに合わせて総合的に活用できるようにする。

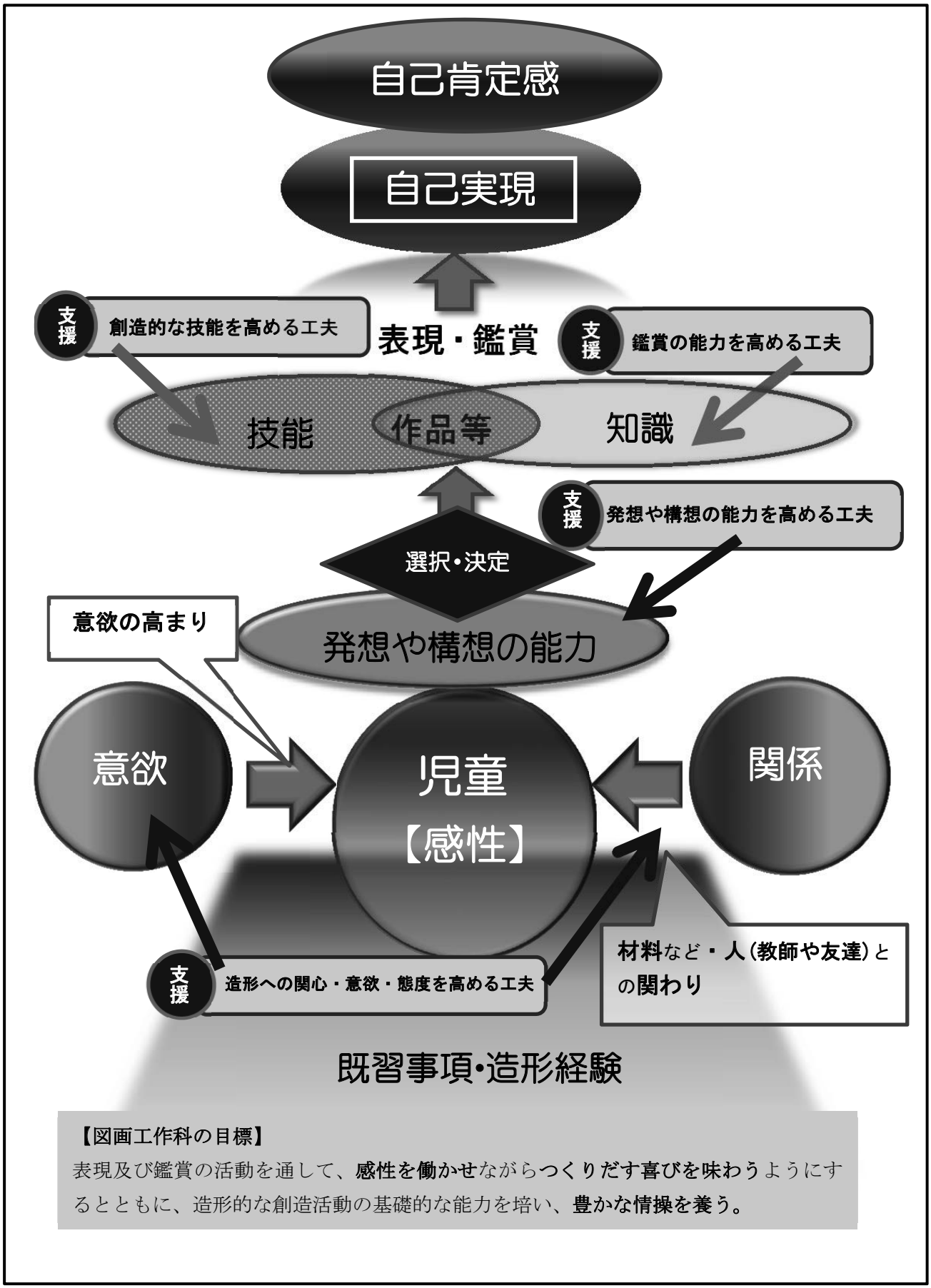
○「鑑賞の能力」を高める工夫

・表現と関連した鑑賞の場面を意図的・計画的に設定し、友達などの作品の面白さを捉えたり、よさや美しさを感じ取ったりしたことを自らの表現に生かせるようにする。

【目指す児童像】

○自信をもって挑戦し、自分の思いや考えを主体的に表現することができる児童
○発想や構想したことを形や色などで豊かに表現することができる児童
○経験したことや友達との関わりを通して、豊かに感性を働かせることができる児童

2　研究のイメージ図　児童が感性を働かせ、自ら選択・決定し表現する過程のイメージ



３　検証授業

検証授業①

１　題材名　「いろいろ、いろみず、あつめてなにしよう」Ａ表現（１）　対象　第２学年

２　題材の目標

色水をつくり、並べたり、積み重ねたりしながら色と形の美しさや面白さ味わう活動を楽しむ。

３　題材の評価規準

ア　造形への関心・意欲・態度	イ　発想や構想の能力	ウ　創造的な技能	エ　鑑賞の能力
①色水をつくることや、並べたり、積み重ねたりする活動を楽しんでいる。	①水の色から楽しい活動を思い付いたり、並べ方や積み重ね方を考えたりしている。	①色水の色を比べ、水を加えたり色を混ぜたりしている。 ②同じ色を集める、色を組み合わせるなど、色水の入った容器の並べ方、積み重ね方、置き方を工夫している。	①色水の美しさを感じ取ろうとしている。 ②活動によって変化していく場所の面白さを感じている。

４　本題材における感性を働かせ、自ら選択・決定し表現することができる指導方法の工夫

手立て	具体的な内容
「造形への関心・意欲・態度」を高める工夫	・教師が色水をつくって見せることで、導入時に自分が色水をつくる場面をイメージできるようにする。 ・教師や友達からの「面白い」「すごい」「きれい」などの共感的言葉かけ。 ・小さな成功を積み重ねる経験を通して次の活動への意欲につなげる。
「発想や構想の能力」を高める工夫	・色をより強く感じるために、白い養生の上で活動する。 ・友達がアイデアを思い付いたり工夫したりしていることに気付かせる。
「創造的な技能」を高める工夫	・友達との自然な関わりが生まれるような机の配置などの環境の整備。 ・色水をつくり、並べる活動を通して豊かな造形活動を促すために十分な量の材料の準備をする。
「鑑賞の能力」を高める工夫	・活動を通じて思ったことや感じたことを発表し合う。 ・友達が様々なアイデアを思い付いたり工夫したりしていることに気付かせる。

５　指導観

（１）　題材観

本題材はあらかじめペットボトルに入れた水に、カラーインクを落として色水をつくり、光の当たる場所に並べて色の美しさを味わう内容である。児童はインクを垂らす活動を通じ、透明な水に色が付いていく過程を体験する。そして児童は生まれた色の美しさを感じ、自分の表したい色のイメージをつくりだし、色、濃さ、並べ方で表現していく。図画工作科の授業で大切なことは自分の感じたことを自分らしい方法で表すことである。現在指導している児童の中には、「これでいいですか」「あっていますか」と質問をする児童が数名いる。そのような児童が今後少なくなるように、今回の造形遊びを通じて様々な発想や工夫を肯定し、児童が「自分の考えたことに自信をもって活動すること」を経験することが重要である。そしてこのような造形遊びの経験が、今後の主体的な児童の学習へとつながっていくと考える。そのため、本題材は児童の興味や関心を出発点とし、活動が明快で全員が自分の力で成功体験、つくりだす喜びを味わえる活動を意識し設定した。

（２） 教材観

インクでつくる色水は透明であり光を当てることで、色のついた光として、色をより強く感じることができる。また微妙な色の調整が可能であり。自分の色のイメージにより近いものをつくることができる。またインクが水に溶ける様子は美しく、形が変化していく様子は、息をのむ様な魅力がある。この過程を見ることで児童は「自分が生み出した色水だ。」という気持ちで、より愛着をもって活動できるのではないかと考える。

容器のペットボトルは身近な材料であり、２年生の力でも蓋をすることができる。色水をこぼす心配をせずに置く場所を選び、並び替え、積み重ねが容易であることから、児童の考えたことを試しながら表現するのに適している。また、ペットボトルで色水をつくる活動はインクが溶ける様子を捉えやすく、大型のペットボトルを使えば、色の塊として児童はより強く色を感じることができると考える。

（３） 材料・用具の設定

・児　童　ペットボトル１本、筆記用具、活動的な服装

・授業者　ペットボトル５００本（様々な大きさのもの）

プリンタ用詰め替えインク（マゼンタ・シアン・イエロー）以上３色を小さい容器に入れてそれぞれスポイトをさしておいたものを６セット

（４） 本題材における〔共通事項〕との関連

色水をつくり、並べる活動を通じて形や色、組合せなどの感じを捉え自分のイメージをもつ。

６　指導と評価の計画（全１時間）と本時の指導計画

（１）ねらい　色水をつくり、並べたり、積み重ねたりしながら色と形の美しさを味わう活動を楽しむ。

（２）展開

Ｃの状況と判断される児童への手立て　自ら選択・決定し表現することができる手立て

主な学習活動・児童の姿		◆指導上の留意点◇支援	評価規準と評価方法
１　本時の目標を知る。 インクをつかってお気に入りの色水をつくってみよう。 すきなようにつくった色水をあつめて、ならべてみよう。 ２　色水のつくり方を知る。	導入	◇学習活動とめあてを伝える。 ◇スポイトでペットボトルにインクを垂らす方法を示す。	【ア造形への関心・意欲・態度】①色水をつくることや、並べたり、積み重ねたりする活動を楽しんでいる。（観察・発言）
 ３　色水を好きな容器に入れて	展開	◇置いてよい場所を示す。 ペットボトルの置き方を自ら選択できるように、ならべる、倒して置く、重ねるなどの方法を示す。 ◇色水をいくつでもつくって、注ぎ足してよいことを伝える。 ※一人５本以上はつくる。 ◇一人でも友達と一緒に活動してもよいことを伝える。	【イ発想や構想の能力】①水の色から楽しい活動を思い付いたり、並べ方や積み重ね方を考えたりしている。（観察） 【ウ創造的な技能】①色水の色を比べ、水を加えたり色を混ぜたりしている。

ならべる。 ４　光に当てる。同じ色の仲間を集めるなどを試し、色を感じながら並べる。 ５　容器の大きさなども思い付いたことに合わせて試しながら活動する。 ６　友達の活動を見てヒントにしたり、友達と相談しながら一緒につくったりする。	展開	◆色水をつくる活動に十分浸れるように、何度でも試せる容器の数、インクの量が十分である学習環境を整える。 ◆色水をつくる場面や並べる場面で授業者から具体的な手立てを示さず、児童の活動を見とる。一人一人の発想を生かした活動が展開できるよう個別の支援を行う。 ◇授業者がカメラをもち、子供の活動を記録することを伝える。 ◇友達のつくった色水や場の様子の変化に気付くよう呼びかける。	【ウ】②同じ色を集める、色を組み合わせるなど、色水の入った容器の並べ方、積み重ね方、置き方を工夫している。（観察） 【エ鑑賞の能力】①色水の美しさを感じ取ろうとしている。 【エ】②活動によって変化していく場所の面白さを感じている。
今日の活動を振り返ろう。 ７　今日の授業で気付いたことを発表させる。（２、３人） ８　片付け ・　色水を流す。 ・　ペットボトルを網に入れる。 ９　ワークシートに記入する。	まとめ	◇気に入った色を１本だけ持ち帰ってよいことを伝える。家や公園など好きな場所に置いてみるなどして楽しむことを提案する。 一斉指導の後、工夫したことや感想などを記入させる。	

７ 成果と課題

手立てに照らし合わせた成果と課題　　○成果　●課題

手立て	具体的な内容
「造形への関心・意欲・態度」を高める工夫	○教師が色水をつくる過程を提示することで導入時に活動のイメージをもち、意欲的に活動することができた。 ○児童の「すごい！見て！」という場面での教師の言語的共感により、自信をもって活動することができた。
「発想や構想の能力」を高める工夫	○白い養生の上で活動することで色水の色や濃さをより具体的に感じ、主体的に発想する姿が見られた。 ●つくる活動から並べる活動に移行する活動の見通しをもたせることが、不十分であった。 ●児童の実態に応じた段階的な学習計画を立てる必要があった。
「創造的な技能」を高める工夫	○友達との自然な関わりが生まれるような机の配置を工夫することで、友達の発想や工夫に気付くことができた。 ○十分な量のペットボトルを与えることで、色水をつくり並べる経験を積み重ね、創造的な技能を高めることができた。 ●色水の色についての指導、濁った色水にインクを加え続ける児童への指導の仕方
「鑑賞の能力」を高める工夫	○友達の作品や活動を鑑賞して、思ったことを発表し合うことで、友達の活動やアイデアのよさに気付くことができた。

検証授業②

１　題材名　「鏡に映した世界であそぼう」Ａ表現（１）　対象　第５学年

２　題材の目標

鏡の中に映し出された空間を覗きこむことから発想を広げ、材料を生かし工夫しながら表現する活動を楽しむ。

３　題材の評価規準

ア　造形への関心・意欲・態度	イ　発想や構想の能力	ウ　創造的な技能	エ　鑑賞の能力
①鏡に映し出された空間の特徴を生かした活動に取り組もうとしている。	①　鏡の合わせ方を様々に試すことから、映し出された空間の様子の変化の違いや面白さに気付いている。 ②　緩衝材や紙が鏡に映し出された、形、色、動きの感じなどを基に、造形的な活動を思い付いている。	①映し出された空間のよさや面白さが生かされるように、緩衝材や紙を並べたり、積んだり、つなぎ合わせたりなどの工夫をしている。	①鏡と鏡で合わせてできる空間のよさを感じ、友達の活動のよさや特徴を感じ取ろうとしている。

４　本題材における感性を働かせ、自ら選択・決定し表現することができる指導方法の工夫

手立て	具体的な内容
「造形への関心・意欲・態度」を高める工夫	・鏡を床に置く、立てる、角度を変えるなどの例示を教師が実際にやって見せ、奥行きの広がり方の面白さに気付かせる。
「発想や構想の能力」を高める工夫	・紺や黒などの布を活動場所に敷き、白い材料を視覚的に強調させる。 ・鏡の操作から発想を広げられるように、一人２枚の鏡を事前に用意する。 ・児童の発想の広がりに応じて、予備の鏡も用意し提示できるように配慮する。
「創造的な技能」を高める工夫	・材料は置く、並べる、つなげるなど繰り返し操作しやすいものに厳選する。 （与えるタイミング、量、長さ、幅などの十分な吟味）
「鑑賞の能力」を高める工夫	・自然な関わりが生まれるように、机の配置などの環境整備をする。 ・必要に応じてプロジェクターや投影機を使い、画像で活動を振り返らせる。

５　指導観

（１）題材観

本題材は鏡の中にできあがった空間を覗きこむ行為から発想を広げてく内容である。主材料は鏡の他に、緩衝材や紙など、置いたり、並べたり、貼ったりすることが繰り返し試しやすいものを計画する。鏡の特性は材料と合わせる角度を変えることで、現実とは違う空間を様々につくることができることである。発想を広げることが苦手な児童が、鏡を覗き込む行為の中から、出来上がった空間のよさを感じとり、そこから「こんなことができるかもしれないな。」や「もっとこんな風に工夫してみたい。」など、自らの感性を働かせて材料と関わり、発想を広げながら表し方を工夫していこうとする姿を期待する。

授業展開の導入では、児童に鏡の操作を意識させ、奥行きの広がり方の多様な面白さを十分に感じさせることが大切である。全体指導では、そのよさが十分に児童に伝わるように、必要に応じてプロジェクターや実物投影機などを教師が使用して、視覚的に分かりやすい提示の仕方を計画する。また展開時では、児童が自らの感性で鏡の気に入った様子を見付けられるような時間を十分に保証し、選択・決定できる場面を計画する。また補助的な用具として養生用のテープを用意する。養生テープは貼りやすく、はがしやすい特性がある。このことにより、鏡を固定したり、別の角度に変えたりしやすくさせ、鏡の操作を繰り返し試しながら、発想を広げたり、表し方を工夫したりすることができるようにする。鏡と材料の操作を十分に楽しむ経験から、奥行の広がり方の様子に興味をもつ力を育てたい。見ることとつくることが常に一体となることで発想を広げ、自らの感性を十分に働かせることを願いこの題材を設定した。

また児童について、７月に行った図工に関する実態調査の結果では、「図工の授業で自分の思いや考えを表すことが好きですか？」の質問項目に対して「とても好き」と答えた児童が 31 名中 18 名で全体の58%を占めた。これに加えて、「まあまあ好き」と答えた児童 11 名を合わせると、93%と非常に高い結果が得られた。

その一方、「作品をつくっている時に、困るのはどんなときですか？」については、「つくる時に何をしようか決められない時」が 31 名中 22 名で全体の 71%、続いて「途中までつくったけれど、自分の思い通りにうまくいかなかった時」が 18 名で 58%を占めることが分かった。この結果を受けて、導入時の材料やテーマの与え方などを明確にする必要があることが分かった。

また、「友達の作品を見たり、作品について友達の話を聞いたりすることは好きですか？」の質問項目については、「とても好き」と答えた児童が 31 名中 13 名、「まあまあ好き」と答えた児童 13 名と合わせると全体の約84%を占めた。「好き」や「まあまあ好き」と答えた児童の一番の理由として「工夫に気付いたり、アイデアを思い付いたりする」が 20 名ともっとも多く、授業展開の中で、友達との関わりの中から発想を広げようとしていることが分かってきた。しかし、あまり好きではないと答えた児童も31名中５名存在する。その理由として、「友達の作品を見る時間より、自分でつくる時間が欲しい」と答えた児童が多い。このことから、見たり話を聞いたりする時間の設定の仕方に課題があることがみえてきた。原因として考えられることは、児童が友達の作品を見たいという、必然性を感じられないことが考えられる。特に、授業展開の終末場面で、自分の活動の手を止めて、友達の作品を見る場面において、このように感じていると推測される。そのため、児童の鑑賞の能力を高める工夫として、教師がデジタルカメラ等で児童の活動の様子を記録し、プロジェクターや実物投影機で映し出す工夫を計画する。この手だてによって、児童が視覚的にわかりやすく他の児童の活動のよさを感じられるようにする。

（２）教材観

鏡の特性は材料と合わせる角度を変えることで、現実とは違う空間を様々につくることができることである。児童が鏡と鏡の組み合わせ方を様々に試しながら、発想が広げられるようにすることができる材料の厳選が大切である。そのため主材料は鏡の他に、緩衝材や紙など、置いたり、並べたり、貼ったりすることが繰り返し試しやすいものを計画する。それぞれの材料は、線材、面材、点材などの形状的な性質が違う。しかし、共通して言えることは、置いたり、並べたりして様子を鏡に映し出した時に、鏡の空間にまるで材料の数が増えたような錯覚を楽しむことが可能である。材料の色は白で統一している。これは、展開の前半の場面で、児童が鏡の操作に思考がいくことを期待し、映し出した形の面白さに気付かせることを期待するものである。

（３）場の設定

・活動する机の上は紺や黒の不織布を敷き、主材料の白い紙や緩衝材の形の美しさや面白さを視覚的に強調させ、貼ったり、剥がしたりした時に破れずに、安定した台面を確保する。
・鏡の操作から発想を広げられるように、一人２枚の鏡を事前に用意する。
・材料は置く、並べる、つなげるなど繰り返し操作しやすいものに厳選し、与えるタイミングも段階を経て手渡すなどして、鏡の操作に集中して活動ができるようにする。
・自然な関わりが生まれるようにグループは流動的に設定し、机をつなげて長くし配置などの環境整備をする。
・必要に応じてプロジェクターや投影機を使い、画像で活動の振りかえらせる。

（４）本題材における〔共通事項〕との関連

鏡を合わせた感じや材料に働きかける行為からつくられる形や色、奥行などの造形的な特徴から、自分のイメージをもって活動する。

（５）板書計画

「鏡に映した世界であそぼう！」
１４：１５～　◎鏡の合わせ方を色々と試して、その世界のよさを発見しよう！
振り返り

鏡／１人、２枚
複数の友達と活動してよい。
材料・・エコパッキン
紙
その他・・養生テープ／各×１個

振り返りの場面では、
自他の活動のよさを感じ取るために、記録した画像をプロジェクターに映し出して見せた。

６　指導と評価の計画（全１時間）

（１）　ねらい　鏡の中に映し出された空間を覗きこむことから発想を広げ、材料を生かし工夫しながら表現する活動を楽しむ。

（２）展開

Ｃの状況と判断される児童への手立て　自ら選択・決定し表現することができる手立て

主な学習活動 ・児童の姿		◆指導上の留意点◇支援	評価規準と 評価方法
１　鏡の操作の面白さに気付く。 ・教師の示す例示を見て学習活動に見通しをもつ。 ２　学習のめあてを知る。 鏡の合わせ方を色々と試しながら、その世界のよさをたくさん発見しよう！	導入	◆鏡の操作を例示する。 ◆見通しをもたせる。 ◇鏡を合わせた世界の面白さについての気付きやつぶやきに共感的に応える。 ◆学習のめあてを伝える。	鏡に映し出された空間の特徴を生かした活動に取り組もうとしている。 【ア－①造形への関心・意欲・態度】 （発言、つぶやき）
３　気に入った角度や様子を試す。 ・２枚の鏡の合わせる角度を狭めてみたり、大きく開いてみたりする。 ・鏡の中に出来上がった空間を覗き込み、できあがった空間の面白さから次の活動を思い付いたり、同じ行為を繰り返し試したりする。 ４　複数の材料を選択し鏡に映しだし始める。 ・鏡の中に映し出された複数の材料の様子を眺め、並べ替えたり、材料を選んだりする。 ５　表し方を工夫しながら更に活動の世界を広げる。 ・一人で自分の活動を追究したり、複数の児童が自分たちで決めたグループで活動しながら更に表し方を工夫する。	展開	◆鏡の置き方や合わせる角度を意識させる。 ◇まず材料はあえて一人一個に限定して手渡し、鏡に映る材料の数が操作する角度によって増えたり減ったりする点に気付かせる。 個別に２枚の鏡の合わせ方を具体的に例示して見せ、児童の気付きや発言に共感的に応えていく。 ◆材料を各班に配る。 ◇おおむねの児童が、鏡の合わせ方の面白さに気付いたタイミングで、事前に用意しておいた複数の材料を配布していく。 ◆机間指導しながら共感的に指導、助言を行う。 個別に鏡や材料の具体的な操作方法を例示し、児童の活動を励ましながら共感的に声を掛ける。	鏡の合わせ方を様々に試すことから、映し出された空間の様子の変化の違いや面白さに気付いている。 【イ－①発想や構想の能力】（活動の記録） 緩衝材や紙が鏡に映し出された、形、色、動きの感じなどを基に、造形的な活動を思い付いている。 【イ－②】（活動の記録） 映し出された空間のよさや面白さが生かされるように、緩衝材や紙を並べたり、積んだり、つなぎ合わせたりなどの工夫をしている。【ウ－①創造的な技能】（活動の記録）
今日の活動を振り返ろう。 ６　お互いに気付いたことや活動のよさ、面白さなどについて発表する。	まとめ	◆プロジェクター、実物投影機で児童の活動を画像で映し出して見せる。 ◇発言やつぶやきに応えながら、児童の発想や表し方の工夫に共感する。	鏡と鏡で合わせてできる空間のよさを感じ、友達の活動のよさや特徴を感じ取ろうとしている。【エ－①鑑賞の能力】 （発言・つぶやき）

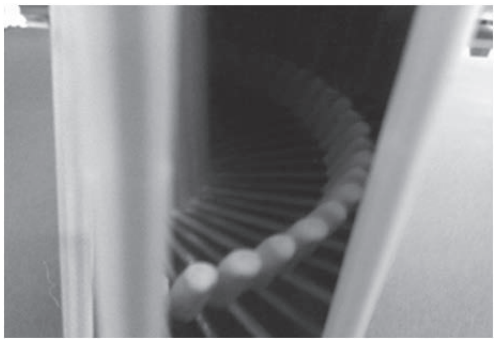
7　成果と課題

（1）手立てに照らし合わせた成果と課題　　○成果●課題

手立て	具体的な内容
「造形への関心・意欲・態度」を高める工夫	○鏡を床に置く、立てる、角度を変えるなどの操作の例示から、児童が奥行きの広がり方の面白さに気付き、意欲が高まった。
「発想や構想の能力」を高める工夫	○紺や黒の布を活動場所に敷くことで、白い紙や緩衝材の形の美しさや面白さを視覚的に分かりやすく気付かせることができた。 ○２枚の鏡を手渡すことで、様々な奥行きの広がり方を見つけた。 ●展開の中盤から後半にかけて、想定より鏡を増やして与える必要があった。 ○展開に応じた手立てをとることで、発想をより高めることができた。
「創造的な技能」を高める工夫	○材料を置く、並べる、つなげるなど繰り返し操作しやすいものに厳選することで、鏡の操作を十分に行い、材料の配置の仕方を工夫していた。 ●紙や緩衝材以外の材料で、児童の創意工夫が今後見られるように、材料の吟味を今後も十分に行っていく。
「鑑賞の能力」を高める工夫	○グループを流動的にすることで、個人的な活動から複数の活動まで多様な動きの中で、お互いのよさに気付き、表現に生かしていた。 ●停滞してしまう児童に対しての声掛けや児童同士の関わりをどう支援していくか、教師の個々の児童への声掛けが必要な場面があった。 ○プロジェクターや投影機を使い、画像で活動の振りかえらせることで、互いのよさを視覚的にわかりやすく気付かせることができた。 ●児童自らが ICT 機器を操作できるような、場の設定について工夫、改善点を模索し、さらに児童が鑑賞の能力を高められるようにする。

8　鏡の中に映し出された空間のよさや面白さに気付く場面

「遠くまで道が続いているようだね。」
友達と協力して沢山の鏡の合わせ方を工夫して、発想を広げた。



「一個の材料がまるで沢山あるようだね。」
２枚の鏡を狭めて合わせて覗いて発見できた。

「人形の仲間がたくさん映っているね。」
鏡と鏡を向い合せにして、奥行きの広がりの面白さに気付いた。

検証授業③

１　題材名「マイ・ミラクルシューズ」　Ａ表現（２）　対象　第５学年

２　題材の目標

イメージをふくらませて自分の表したいマイ・ミラクルシューズを発想して構想を練り、材料や用具の特徴を生かし、表し方を工夫して表現する活動を楽しむ。

３　題材の評価規準

ア 造形への関心・意欲・態度	イ 発想や構想の能力	ウ 創造的な技能	エ 鑑賞の能力
① イメージをふくらませて自分の想像したマイ・ミラクルシューズをつくる活動に楽しく取り組んでいる。	① 自分の表したいシューズを考えたり思い付いたりしている。 ② 自分のつくりたいシューズのアイデアや計画を立て、絵に表す。	① つくりたいシューズに合わせて材料や表現方法を選び、使い方や組み合わせを工夫して表現している。	①自他の活動や作品を見たり、話し合ったりしながら、シューズのつくり方のよさや美しさを感じ取っている。

４　本題材における感性を働かせ、自ら選択・決定し表現することができる指導方法の工夫

手立て	具体的な内容
「造形への関心・意欲・態度」を高める工夫	・導入において、実際に教師がシューズを履いてみせ、身に付けられること、様々な材料を組み合わせる事ができることを示す。 ・机間指導時に、児童の作品や思考の変化に対して、共感、肯定的な声掛けを行い、児童に自信をもたせたり、他の材料の可能性を提案したりする。
「発想や構想の能力」を高める工夫	・材料置き場に材料を種類毎にまとめて置くことで、視覚的に様々な材料と関われるようにする。 ・個に応じた助言や支援を行う。児童自身に考えさせる場面も与え、自分で選択や決定できるようにし自力解決を促す。 ・児童自身が自分の心に浮かんだイメージを具体化するような手立てとして、作品をつくる前にアイデアスケッチをし、表現方法や材料の計画を立てる。
「創造的な技能」を高める工夫	・５年生という発達段階や既習事項を踏まえた材料や用具を用意する。 ・材料を児童に渡す際に既習事項を想起させ、どんな表現に使用したかを全体で共有し、本題材における表現に生かせるようにする。
「鑑賞の能力」を高める工夫	・つくりながらお互いの作品を見合い、話せるような座席配置をしたり、短い鑑賞の時間を設定したりしていく。 ・必要に応じて、面白い工夫をしている児童の作品を教師が全体に紹介する。

５　指導観

（１）題材観

本題材は、自分の足を新聞紙でくるんで、布ガムテープを巻いて型をとり、その型に自分で選んだ材料を使ったり、表したいことに適した方法などを組み合わせたりする。児童一人一人が「こんな靴をはいてみたい」とか「こんな靴があったらなぁ」と想像を広げ、世界に一つのマイ・ミラクルシューズをつくる内容である。

靴は、毎日履くものであり、児童にとって生活に根ざした身近なものである。また、運動靴、長靴、サンダルなど、種類も豊富で用途も多様である。導入時に、履くことさえできればどのような形状でもよいと指導することで、日常使用の延長ではなく、冒険心に富んだ表現や児童が進んで表したいことを選ぶなど、楽しみながらつくる姿が期待される。

児童には自分の表現したいことに合わせ材料を用意するよう呼びかけ、教師側は、児童がこれまでに経験した材料である木材や針金、ビニールテープや布ガムテープ、ポリエチレンテープ、毛糸、ストロー、モールなど多様に用意する。用具も電動糸のこぎりや、ペンチ、ラジオペンチ、げんのう、など丈

夫な材料を使えるようになった高学年の実態に応じて用意し、児童が表現に適した方法を発想したり、組み合わせたりしながら活動できる環境を整える。児童は制作の途中でも、試す・つくる・鑑賞する、と何度も行きつ戻りつしながら活動を高めていく。また、友人に意見を聞いたり、お互いの作品を見合うなどして、新しい発想が浮かんだりするなど、活動が広がっていくことも期待される。

本題材では、表したいことに合わせ材料や用具の特徴を生かして使い、表現に適した方法などを組み合わせて表す能力や創造的な技能を高めることと同時に、自分の感性を豊かに働かせて活動することをねらいとして設定した。

（２）教材観

材料の組み合わせや表現のイメージと技能が結び付くよう、これまでに経験した用具・材料を使用することとする。基本的に教師側でも準備をする。また、１時間目にシューズの下描きをした際に、児童が使いたい材料を記入させ、可能な限り準備をする。また、児童が希望する色の材料がない場合は、着彩するなど、自分で、自分の表したい表現に近付けるよう指導する。

活動の最中、他の児童が思い付かないような道具や材料を使っている児童がいる時や、または面白い組み合わせ方をした時など、必要に応じてクラス全体に紹介する。

（３）材料・用具の設定　★足型をとる時に使用する教材

用具	切るもの	はさみ　カッター　ダンボール用カッター　のこぎり ペンチ　万能ばさみ　電動糸のこぎり盤
	工具	げんのう　ドライバー　ペンチ　ホットメルト
	接着するもの	ボンド　セロハンテープ　★布ガムテープ　クラフトテープ 液状のり　スティックのり　ビニールテープ　ホットボンド 両面テープ
	穴をあけるもの	きり　ハトメパンチ
	接合するもの	ネジ　蝶番　くぎ　ステープラー
加色のための用具	絵の具	水彩絵の具　アクリル絵の具　ラメ絵の具
	ペン類	水性ペン　油性ペン　チョーク　クレヨン　色エンピツ
	技法表現に使うもの	金網　歯ブラシ　ローラー　スポンジ　ビー玉　ストロー
材料	線材 （ひも類含む）	針金　毛糸　ストロー　モール　糸　紙ひも　竹串 つまようじ　ポリエチレンテープ
	面材 ・半透明 ・紙類	アルミ箔　布類　ＯＨＰシート　ダンボール　ベニヤ板
		カラーセロハン　ポリエチレンシート
		工作用紙　厚紙　色画用紙　画用紙　折り紙　うすば色紙 ★新聞紙
	点・塊材	紙ねん土　油ねん土
	芯材	トイレットペーパーの芯　ポリエチレンシート
	素材	ペットボトル　発砲スチロール　綿
	貼り付けるもの	ビー玉　ビーズ　ボタン　ペットボトルキャップ

（４）本題材における〔共通事項〕との関連

様々な材料から、形や色などの造形的な特徴に児童自身が気付き、試行錯誤しながら、自分のイメージを深め、マイ・ミラクルシューズをつくる。

6　指導と評価の計画（全６時間）

Ｃの状況と判断される児童への手立て　　自ら選択・決定し表現することができる手立て

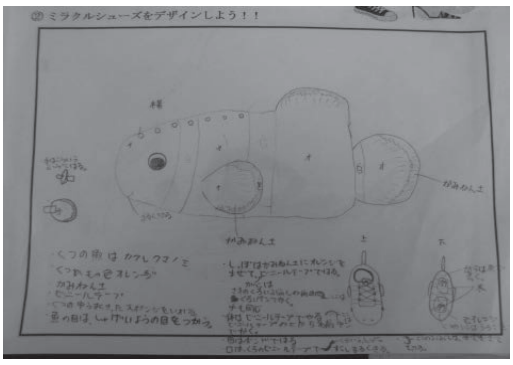
主な学習活動・児童の姿		◆指導上の留意点◇支援	評価規準と評価方法
1　題材と出会う。 2　教師の参考作品をみる。 3　アイデアスケッチを描く。 マイ・ミラクルシューズのアイデアを考えよう。	導入 第1次	◆参考作品を例示し、自分のつくりたいものの、イメージを膨らませる。 ◆参考作品を見て、気付いたことや、できそうなこと、やってみたいことを聞く。 ◆付箋を用い、使いたい材料を確認する。 ◇自分の靴を観察し、靴の機能や工夫に気付かせる。	自分の想像したマイ・ミラクルシューズをつくる活動に楽しく取り組んでいる。 【ア造形への関心・意欲・態度】 （活動の様子） 自分のつくりたいシューズのアイデアや計画を立て、絵に表す。 【イ②発想や構想の能力】 （活動の様子・ワークシート）
4　シューズの型をつくる。 マイ・ミラクルシューズをつくろう。 ・自分のつくりたいシューズに合わせて大きさを決め、つくる。 ・自分のつくりたいシューズに合わせ材料や表現方法を選び、工夫して表現する。	第2次 過程	◆表現が進まない児童には、アイデアスケッチ（計画書）を振り返らせたり、周囲の児童の作品やアイデアを参考にしたりしながら励ます。 ◆使いたい材料や、試したい表現に挑戦するよう支援する。 ◇自分の靴を観察し、靴の機能や工夫に気付かせる。	☆自分の想像したマイ・ミラクルシューズをつくる活動に楽しく取り組んでいる。 【ア】（活動の様子） 自分の表したいシューズを考えたり思い付いたりしている。 【イ①】（観察・作品） つくりたいシューズに合わせて材料や表現方法を選び、使い方や組み合わせを工夫して表現している。 【ウ創造的な技能】 （活動の様子・ワークシート） 自分や友達の活動や作品のよさや面白さ、美しさを感じ取っている。 【エ鑑賞の能力】 （活動の様子）
5　自分や友達の作品を鑑賞する。 お互いの作品をみて、よさを味わおう！ ・友達の作品を見て、よさや美しさ、面白さを感じる。	第3次まとめ	◆自分や友達の作品のよさをより感じるために、鑑賞の視点を指導する。	自分や友達の活動や作品のよさや面白さ、美しさを感じ取っている。 【エ】（発言・鑑賞カード）

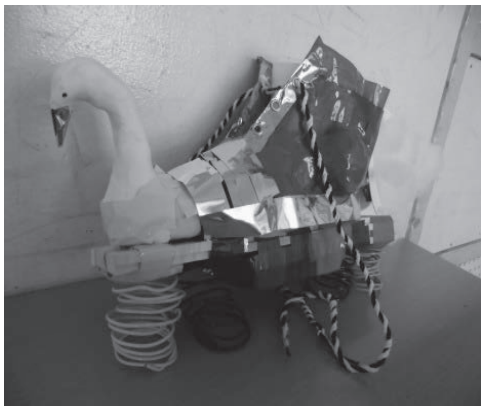
7　成果と課題

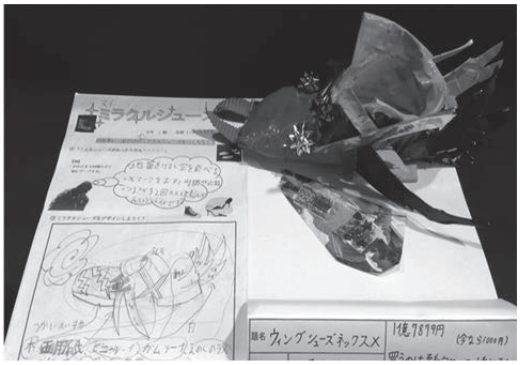
手立てに照らし合わせた成果と課題　　○成果　●課題

手立て	具体的な内容
「造形への関心・意欲・態度」を高める工夫	○導入時の作品例示により、様々な発想や材料の組み合わせができることを知ることによって、児童の意欲を高めることができた。 ○児童への共感的な声掛けによって意欲が高まっていた。 ●色々な材料と関わらせるために、絵本を読む等の導入の工夫も検討する。
「発想や構想の能力」を高める工夫	○活動の途中で児童の表現の工夫を紹介したことで、他の児童にとって発想の手掛かりとなり、試す姿がみられた。 ○アイデアスケッチが形になっていくのが、児童にとって発想を広げる手立てになっていた。 ●置き方や、分け方、例示など、もっと児童が材料置き場に足を運ぶ工夫が必要である。 ●アイデアスケッチには、靴をパーツ分けして発想させる工夫が必要である。
「創造的な技能」を高める工夫	○発達段階に合った材料を用意することで、児童が自在に材料を扱い、作品に生かすことができた。 ○教師との関わりの中で、既習事項を想起しながら材料を、作品に生かしていた。 ●材料との関わりや製作のきっかけとなるよう、教師の例示作品の量や種類を検討する。
「鑑賞の能力」を高める工夫	○子供同士の自然な交流があり、お互いの作品のよいところを見付け合うことができた。

8　児童のワークシート・足型の状態・完成作品







検証授業④

１　題材名「ツチナカワールドへようこそ」A 表現⑵B 鑑賞⑴　対象 第３学年

２　題材の目標

土の中や地底世界をイメージしながら、豊かに想像した世界を工夫して描くことを楽しむ。

３　題材の評価基準

ア造形への関心・意欲・態度	イ　発想や構想の能力	ウ　創造的な技能	エ　鑑賞の能力
①自分の想像したツチナカの世界を絵に表そうと積極的に取り組んでいる。	①自分の想像したツチナカの世界を表すために、形や色、組み合わせなどを考えている。	①自分のイメージを形にするために、描画材を選んだり、表し方を工夫したりしている。	①様々な鑑賞資料から想像画についてのよさや面白さを感じ取っている。 ②友だちの作品などから、表現の感じの違いを捉えたり、よさや面白さを感じ取ったりしている。

４　本題材における感性を働かせ、自ら選択・決定し表現することができる指導方法の工夫

手立て	具体的な内容
「造形への関心・意欲・態度」を高める工夫	・身近な生活経験からイメージにつなげる。（土の下） ・土絵の具、マスキングテープでツチナカへの入口を作り、地下世界へのイメージを膨らませる。 ・それぞれの想像した世界への共感的な、アイデアを認める声掛けを行う。 ・アイデアが浮かばない児童には、鑑賞材料や日常体験からイメージを膨らませるよう、声掛けを行う。
「発想や構想の能力」を高める工夫	・絵本や鑑賞資料の活用　（想像画について理解し、活用する。） ・マスキングテープをはがした形からひらめきを導く。 ・身近な世界からの発想（自分の生活や思い描いたものからイメージする。）
「創造的な技能」を高める工夫	・自分なりの土色を、絵の具を混ぜて作成し、土と洗たくのりを混ぜて自分だけの土絵の具を作る。身体感覚からより具体的にツチナカをイメージする。 ・想像した世界を工夫して表すために既習の表現技法を振り返り、活用する。
「鑑賞の能力」を高める工夫	・互いの活動を見ながら、よさや面白さを言葉などで伝え合う。参考にする。 ・鑑賞資料から想像画について理解し、自分のイメージを表現するためのヒントを見つける。

５　指導観

（１）　題材観

本題材は児童自らが豊かに発想したことから、想像をふくらませて思い付いたものを自分で選択や決定した描画材料や方法で描くことで、主体的に表現を楽しみ、高めることを願いたいと考え設定した。土の中に暮らしている生き物を考え、そこからイメージを膨らませていく。想像画の鑑賞を通して「夢のような、色々なものが組み合わされた不思議な世界」について理解する。さらに自らの生活する地面の下に何がどんな風に暮らしているのかを表現するために、感覚を生かしたり、鑑賞材料を活用したりすることで発想や構想する力を身に付け、既習事項を生かして表現する創造的な技能の力を育みたいと考えた。

（２） 教材観

本題材では、イメージしたツチナカ世界を自分なりに工夫して表現するために、自らの生活に密着している「土の中」をきっかけとして考えていく。紙の中央部分にマスキングテープで土の中への入口を作成し、土色の絵の具に土とのりを混ぜて上から塗りつぶす。その後、想像画についてマグリットの作品（「おはなし名画をよむために③マグリットのはてな？」博雅堂出版）を鑑賞する。更に、乾いた土の部分にあるマスキングテープをはがし、現れた道をきっかけとして、土の下、ツチナカの世界を考える。「へんてこ　へんてこ」（小野かおる　文・絵　福音館書店）を読み、様々な表現があり、既習した技法を思い出させる。自分のイメージした世界を自分なりに工夫して表現できるように、ツチナカの鑑賞資料（土の中にすむ生物、土の中の建造物）も掲示し、自分のイメージを膨らませ、想像する助けになるようにした。

（３）材料・用具の設定

児童･･･筆箱、はさみ、のり、絵の具

授業者･･･様々な大きさ・形の白ボール紙（大きさは自分で選ぶ）、マスキングテープ、洗たくのり、アクリル絵の具、パステル、クレヨン、ペン

（４） 場の設定

・土の中の世界をイメージしやすいように、画像資料を黒板に掲示、図鑑など本を教室横に展示しておく。

・既習事項を思い出すよう、絵本と資料を掲示。材料や道具を自分で選んで使用しやすいように、前と横、後ろに配置しておく。

（５） 本題材における〔共通事項〕との関連

・導入における鑑賞材料などから、形や色、組み合わせなどの造形的な特徴の感じを捉える。

・土絵の具の感触や、マスキングテープをはがした道筋などから、ツチナカの世界（ワールド）を想像し自分のイメージをふくらませて描く。

（６） 板書計画

６　指導と評価の計画（全６時間）

Ｃの状況と判断される児童への手立て　　自ら選択・決定し表現することができる手立て

主な学習活動・児童の姿		◆指導上の留意点◇支援	評価規準と評価方法
１　今回の学習について知る。 **土の中には何がすんでいるかな？イメージしよう** ・土の中に住む生き物について連想する。 ・土の中の世界＝ツチナカを想像して絵に表すことを理解する。 ・様々な大きさの白ボール紙の中から自分で描く紙を選ぶ。 ・マスキングテープでツチナカワールドへの入口となる道をつくり、土絵の具をかぶせる。 （紙の中央より上部分） ２　想像画について学ぶ。 ・マグリットの絵本から、想像画について考える。	**導入　第一・二次** **展開　第三・四次（本時）**	○アリ、モグラ、幼虫、ダンゴムシなど、児童から発言のあった生き物を板書していく。 ◆実物投影機を用いて資料を提示する。 ◆様々な形や大きさの紙を用意する。 ◆絵の具を混色し、自分なりの土の色をつくり、校庭の土と洗たくのりを混ぜ、土絵の具を作成する。 ◆土絵の具は後日活用するため、保管しておく。 参考資料からイメージを広げることができるように声掛けを行う。 ◆マグリットの作品（「おはなし名画をよむために③マグリットのはてな？」博雅堂出版）を鑑賞する。 ・現実にはない、空想の世界について理解させる。 「夢のような、不思議な世界。こんなことがあったら楽しいな、という世界」を想像することを伝える。	マスキングテープを貼ったり、土絵の具を作ったりする活動を楽しんでいる。 【ア造形への関心・意欲・態度】 （活動の様子） 自分なりに工夫して道の形を発想したり、色を組み合わせたりしようとしている。 【イ発想や構想の能力】 【ウ創造的な技能】 （活動の様子） 鑑賞材料から表現方法（想像画）を理解しようとしている。 【エ鑑賞の能力】 （活動の様子）
３　ツチナカワールドをイメージし、表現する。 **土の中の世界をイメージをふくらませてかこう！** ・「へんてこへんてこ」を見て、表現方法を確認する。		◆既習事項を振り返り、様々な表現方法について確認を行う。 ・デカルコマニー ・お花紙や画用紙を貼る。 ・パステル　・クレヨン	どんな世界にしようか、考えたり表現したりすることを楽しんでいる。 【ア】 ☆想像したことをどのように表そうか、自分なりに考えている。 【イ】 既習事項を生かし、自分

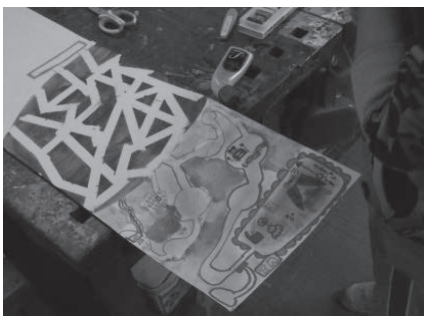
・マスキングテープをはがす。 ・ツチナカワールドをイメージして表現する。 ・自分の思い付いた世界を組み合わせてみる。	第五・六次　まとめ	◆はがしながら浮き出た形を味わうように助言する ◆様々な描画材を選んで描くことができるように、材料や用具を配置する。 ◇材料を通してどんなことができるのかを考えさせ、活動を促す。	のイメージを形にするための用具や技法を選んで表現している。 【ウ】 （活動の様子） （作品）
４自分や友達の表現の違いやよさや面白さを味わう。		◆ミニミニ展覧会を行い、グループ及び全体で鑑賞する場を設ける。	友達の作品のよさや面白さを見つけることを楽しんでいる。 【エ】 （活動の様子）

７　成果と課題

（１）手立てに照らし合わせた成果と課題　　○成果　●課題

「造形への関心・意欲・態度」を高める工夫	○身近な生活体験、土絵の具の活用から、豊かにイメージを膨らませていた。 ●マスキングテープの太さを選択できると、ツチナカへの入口のイメージが更に広がったのではないか。
「発想や構想の能力」を高める工夫	○絵本や鑑賞資料の活用により、発想が広がっていた。 ○紙上半分にマスキングテープでツチナカワールドへの入口となる道をつくって、続きを様々大きさや形の紙に描くことでイメージや発想が広がった。 ●ツチナカの世界を考えるよりも迷路（道）づくりに夢中になっている児童がいた。
「創造的な技能」を高める工夫	○既習事項や道具の活用を考えて場の設定を行っていた。 ●マスキングテープは直線の形しかできず表現に限りがあるので曲線が生み出せるような用具があればよかった。 ●ローラーやパステルの使い方、どのような表現ができるかなどを実践して確かめるとよかった。
「鑑賞の能力」を高める工夫	○マグリット等の鑑賞より、想像画についての理解を深め、自らの表現に生かしていた。 ●児童に様々な体験をさせ、別の視点をもつきっかけになるように鑑賞の時間を設定するとよかった。（さかさにする、色々な手段を用意しておく、など）

８　板書及び鑑賞資料の活用

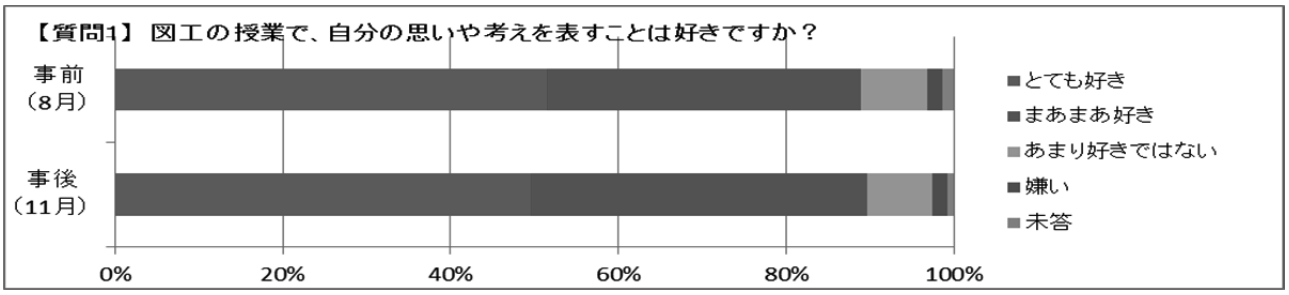


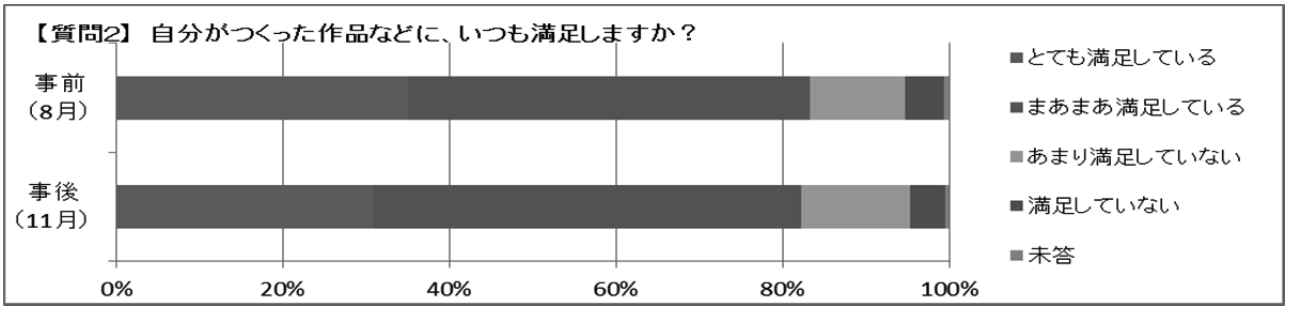
Ⅴ　研究の検証

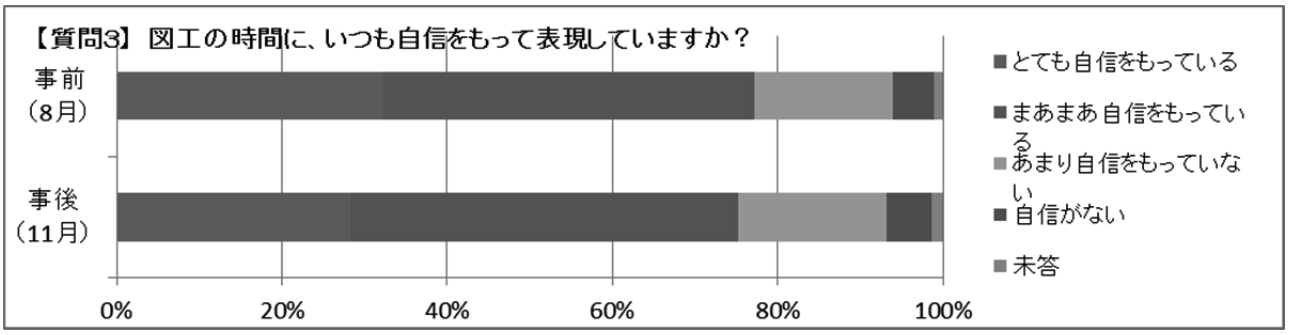
１　検証授業前、後における実態調査結果の比較

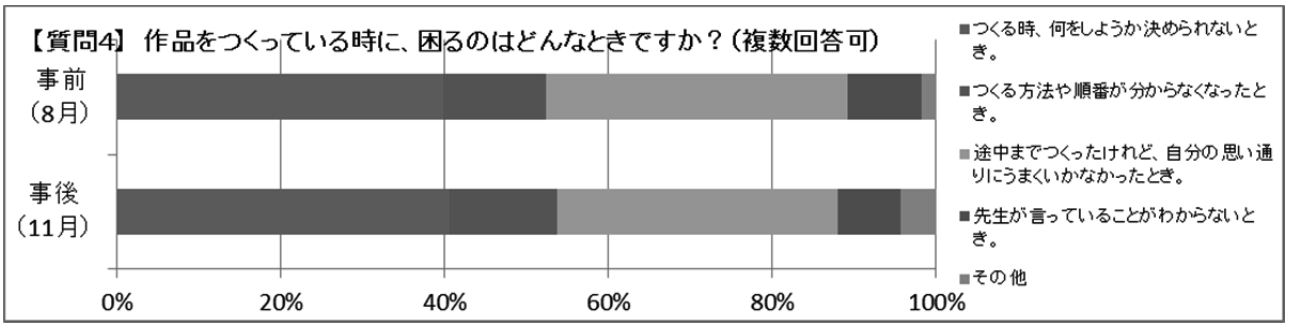
（１）調査の概要

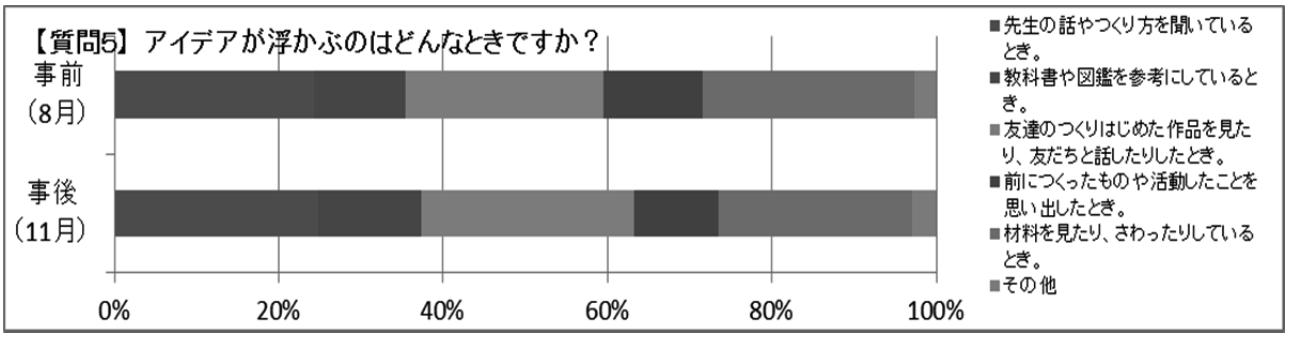
事前調査実施８月　都内７校児童数 1,398 名　　事後実施調査 11 月　同校児童数 1,378 名

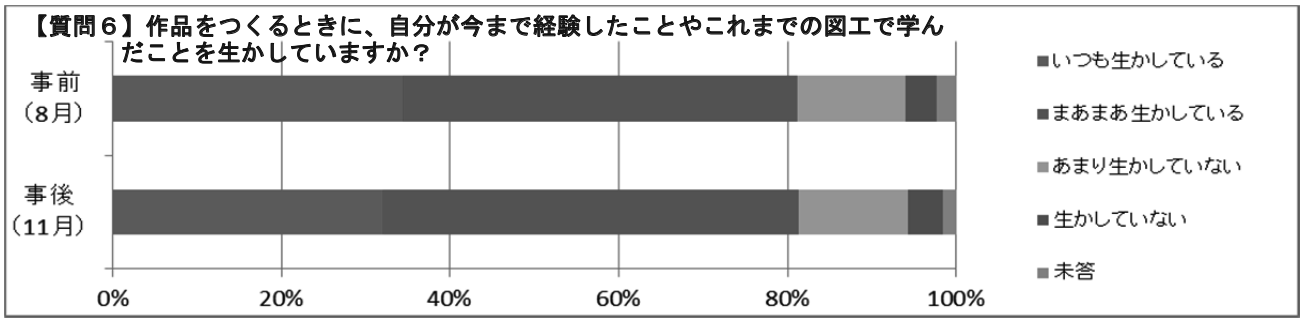


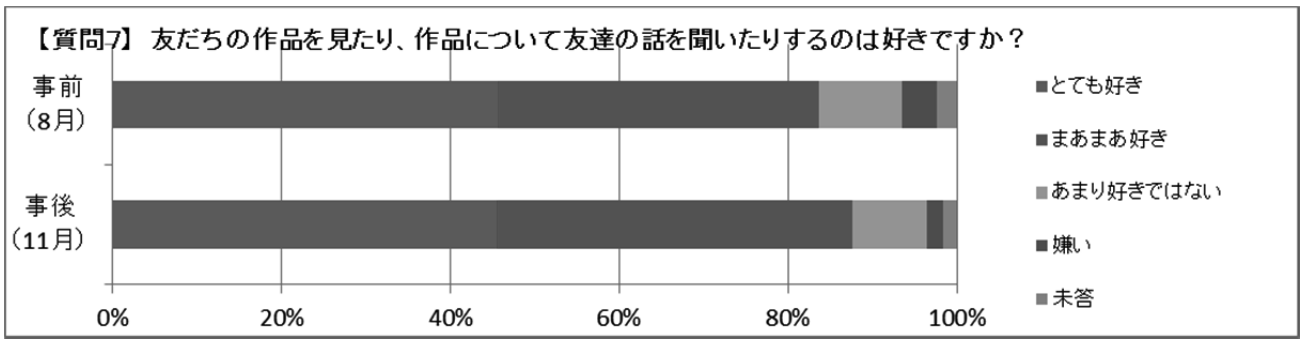


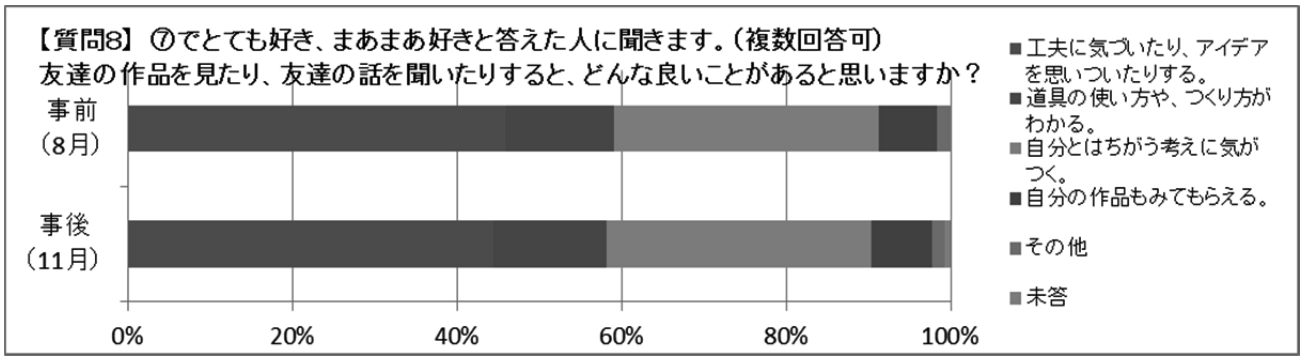


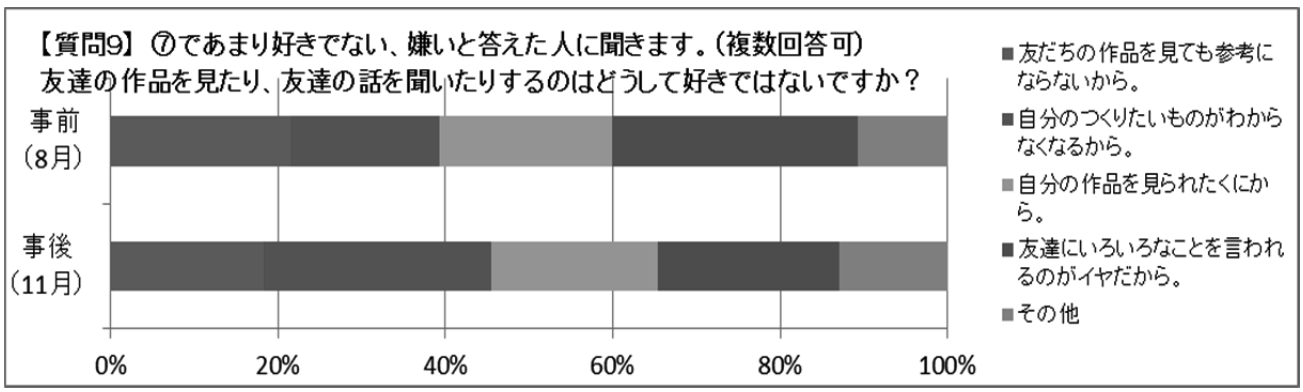












（２）調査結果からの考察

実態調査の結果を比較したところ、質問１「自分の思いや考えを表すことがとても好き」「まあまあすき」と回答した児童、また質問６では「作品をつくるときに、自分が今まで経験したことや、これまでの図工で学んだことをいつも生かしている」「まあまあ生かしている」と回答した児童の割合が若干増加していた。本研究の手だてを通して、既習事項や造形経験を生かすと、自分の思いや考えを表すことが好きな児童を育てることにつながることが分かった。また、質問７からは、友だちの作品を見たり、作品について友達の話を聞いたりすることが「まあまあ好き」の数値が伸びていることから、人（友達）との関わりや言語活動を有効に行うことで、児童自身が表現活動を深めていけることにつながった。

しかし、「自信をあまりもっていない」「自信がない」と回答した児童の数に変化がなかった。今

後は、様々な造形経験を重ね、「発想や構想の能力」を高めつつ、アイデアを実現するための「創造的な技能」を培う指導方法が必要であると考えられる。加えて、さらに発達段階に応じた年間及び６年間を見通した系統的な学習計画を立てることも大切である。

質問８・質問９の結果より、今後は、十分に児童の思いや考えを実現し、より表現を高めていくには、鑑賞の時間の設定の仕方や友達との関係の在り方についてより検討する必要があることが分かった。

Ⅵ　研究の成果と課題

１　研究主題に迫る手立てによって得られた成果について

「造形への関心･意欲･態度」を高める工夫	**〇題材の提示方法や材料との出合わせ方、発問内容の工夫** ・導入時に制作過程の提示をすることで、活動のイメージをもたせ、意欲的に活動させることができた。 ・導入時の作品例示により、様々な発想や材料の組み合わせができることを児童が知ることによって、学習の意欲を高めることができた。 ・児童の身近な生活体験を生かすことで、豊かにイメージをふくらませることができた。 ・材料や道具の使い方の例示を教師が実際にやって見せることで、題材への面白さに気付き、興味や関心を高め活動の意欲が高まった。 **〇共感・肯定的な声掛けを個に応じて効果的に活用する工夫** ・教師による児童の発想や構想に応じた共感的・肯定的な声掛けによって、児童の意欲が高まり、自信をもって活動させることができた。
「発想や構想の能力」を高める工夫	**〇材料や人と意図的・効果的に関わらせ、発想や構想の手掛かりとする工夫** ・教師が材料の量や個数を吟味や検討することで、活動の奥行きが広がり、面白さに気付かせることができた。 ・活動の途中で児童の表現の工夫を紹介したことで、他の児童にとって発想の手掛かりとなり、試す姿が見られた。 ・題材に応じて活動場所を工夫することで、作品のよさを具体的に感じ、主体的に発想する姿が見られた。 ・作品とは対照的な布を活動場所に敷くことで、形の美しさや面白さを視覚的にわかりやすく気付かせることができた。 ・絵本などの鑑賞資料を活用することで、豊かな発想が広がっていった。 **〇個に応じた助言や支援の工夫** ・活動が止まっている児童への共感的な声掛けによって、児童自身がつまずいていることを明らかにし、表現したいことを決定していく手助けになった。
「創造的な技能」を高める工夫	**〇発達段階に応じた学習や造形経験を計画的に積ませる工夫** ・児童の発達段階における扱いやすい材料・用具を厳選し、使い方を具体的に指導することで、児童が自らの力で材料・用具の特徴の面白さに気付き、自分の表したいことに合った、創造的な技能を高めることができた。 **〇既習事項や造形経験を生かし、総合的に活用させる工夫** ・既習事項や材料・用具の特徴をふまえ、題材の中で活用方法を工夫したことで、児童が表し方を想起しながら作品に生かすことができた。
「鑑賞の能力」を高める工夫	**〇表現と関連した鑑賞の場を意図的・計画的に設定する工夫** ・題材と関連する名画の鑑賞を活用することにより、想像画についての理解を深め児童が発想を広げ自らの表現に生かすことができた。 ・児童同士の自然な交流ができるような場の設定をすることで、お互いの作品のよいところを見付け合うことができた。 ・活動のグループを流動的にすることで、一人で行う個人的な活動から複数で行う活動まで、児童が様々な友達と自然に関わり合いながら、お互いの活動のよさや面白さを見付けていくことができた。 ・プロジェクターなどの画像で活動を振り返らせることで、自分や友達の活動のよさや特徴を視覚的にわかりやすく気付かせることができた。

２　今後の課題について

「造形への関心･意欲･態度」を高める工夫	●　**見通しをもたせた活動** ・つくる活動から並べる活動に移行する題材の中で、活動の見通しをもたせるなどの工夫が必要であった。また、作品の置き場や分け方、例示など、もっと児童に材料置き場へ足を運ばせる工夫があってもよかった。今後は、児童が成功体験を重ねていけるような授業の流れを組み立てていく工夫が必要となる。 ●　**児童への有効な声掛け** ・児童への共感・肯定的な声掛けについては一定の成果をあげることができたが、声掛けのタイミングや方法をより具体的にしていく必要がある。また、活動内容や個に応じた声掛け、自信のない児童への支援としての声掛けの仕方や手だてが有効か検証していく必要がある。
「発想や構想の能力」を高める工夫	●　**発想や構想を広げ、ねらいを明確にする授業展開や構成の工夫** ・発想や構想を広げるために、題材の設定や開発において領域ごとの特性やプロセスに合わせた指導方法の検討や工夫だけでなく、授業のねらいをより明確に児童に伝えられるような、授業構成や展開の工夫が必要である。 ●　**児童のイメージを広げられる教師の材料等の提示の仕方や方法** ・材料との出会わせ方については実証できたが、イメージをより深く広げるために、材料の種類や量の精査を行う。材料を多く与えたからといってよい発想には広がらず、選択や決定を促すことにはならなかった。 ・活動の展開からまとめにかけて、材料や道具の増量などの手だてを具体的にとれば、より児童の発想を高めることができた。今後は、材料を種類別に分けて、段階的に発想を広げさせる指導方法の工夫が必要である。より発想や構想の能力を高めていくためには、教師側の提示の精査が必要である。
「創造的な技能」を高める工夫	●　**既習事項に応じた段階的な学習計画や授業構成** ・児童の実態に応じた段階的な学習計画を立て、既習事項をより生かせる題材設定の工夫が必要であった。児童の「創造的な技能」を高めるためには、年間及び６年間を見通した領域ごとの計画的・系統的な取組が必要である。 ●　**児童の創意工夫が生かせるような材料や用具の選定や活用方法の指導** ・表現方法に限りのある題材により、児童の創意工夫の幅を狭めてしまった。 ・使用した材料以外のものでも表現の広がりが得られる材料が挙がった。今後は題材における材料と用具の関係などをより検討して、ねらいに適した材料や用具の吟味及び活用方法の指導は必要である。
「鑑賞の能力」を高める工夫	●　**別の視点をもつきっかけになるような鑑賞の時間の設定** ・横や逆さにして鑑賞してみる、いろいろな場所に置いて鑑賞してみるなど、視点を広げる鑑賞の時間を設定できればよかった。児童に様々な体験をさせることによって、より発想や構想の能力を働かせながら鑑賞させることができた。今後はアイデアを具現化するためのヒントになるような鑑賞活動の工夫とともに、活動が停滞している児童への鑑賞の視点の指導も課題となる。 ●　**鑑賞における場の設定や手段の工夫** ・教師側の仕掛けによる鑑賞の場面が多く見られた。児童自らがＩＣＴ機器などを操作して鑑賞できるような場の設定により、より主体的な児童の鑑賞活動を促していきたい。

平成２６年度　教育研究員名簿

小　学　校　・　図　画　工　作

地　区	学　　校　　名	職　名	氏　　名
港区	麻　布　小　学　校	教　　諭	◎青柳　仁美
中野区	谷　戸　小　学　校	主任教諭	君島　　綾
豊島区	仰　高　小　学　校	主任教諭	島田美由紀
江戸川区	瑞　江　小　学　校	主任教諭	宮内　応典
昭島市	武　蔵　野　小　学　校	主任教諭	河野　一之
昭島市	光　華　小　学　校	主任教諭	佐藤　太基
狛江市	狛　江　第　五　小　学　校	主任教諭	山野井　誠

◎　世話人

〔担当〕
東京都教職員研修センター研修部教育経営課
指導主事　今福　ちか

平成２６年度
教育研究員研究報告書

小学校・図画工作

東京都教育委員会印刷物登録
（平成２６年度第１８６号
平成２７年３月）

編集・発行　東京都教育庁指導部指導企画課
所　在　地　東京都新宿区西新宿二丁目８番１号
電話番号　（０３）５３２０－６８４９
印刷会社　正和商事株式会社

リサイクル適性Ⓐ
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。